

京速コンピュータ「京」の整備に関する要望

東日本大震災の後、一刻も早い復興をめざし我が国の総力を挙げて取り組みが行われている中、京速コンピュータ「京」が世界のスーパーコンピュータ性能ランキングで第1位を維持していることは、その能力の高さを証明するとともに、我が国の将来の成長に向けた希望を与えています。

この「京」が有する能力を最大限活かし、今後の我が国の復興と将来にわたる科学技術と産業・経済の持続的な発展を実現するため、産学官が一体となってオールジャパンの体制を構築し、産業利用を促進しつつ、国際的なスーパーコンピューティング研究教育拠点（COE）の形成に取り組むことが重要であります。

つきましては、「京」の着実な整備に向けて、以下の5点を要望いたします。

1 「京」の本格稼働の実現

世界最高水準の計算能力を誇る「京」の有する能力を最大限に発揮し、震災後の我が国の復興と将来にわたる成長を着実に実現させることが重要である。

については、「京」の本格稼働に必要な電力の確保に向けた各般の措置を含め、「京」の平成24年11月共用開始に向けた着実な整備のため、平成24年度における所要の予算確保を求める。

2 「京」の産業利用促進のための効果的な制度の整備

「京」を中核とする革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）の構築に当たっては、スーパーコンピュータ技術の最大の利用者層である産業界の利用促進を図ることが、極めて重要である。

については、試用を含めた「京」の産業利用枠の設定や、超大規模データのプリ・ポスト処理支援、産業利用の裾野拡大を図るための相談窓口の設置、ソフトウェア移植・チューニング支援など、利用促進のための制度の整備を求める。

3 「京」の産業利用促進のための裾野拡大・底上げ支援

「京」の産業利用を継続的に促進していくためには、現存のスーパーコンピュータ利活用企業層に対する「京」の利用へのステップ・アップの支援とともに、未だ活用に至っていない大部分の企業群に対して、裾野拡大や底上げを図ることが重要であり、そのためのテストベッド環境の構築が重要である。

については、産業界専用のエントリースパコン（FOCUS スパコン）等を活用した高度計算科学研究支援センターにおける産業利用促進の取り組みを維持・強化するための支援のほか、同センターや大阪市の可視化センター（仮称）に、セキュリティを確保した作業用個室を備えたローカルアクセスポイントを設置し、大規模データの入出力や可視化作業を行うための支援など、各般の支援措置を求める。

4 計算科学分野における人材育成に向けた教育研究環境の構築支援

「京」の利活用を担う人材や計算科学分野における先端的な研究者・技術者を育成するためには、国内外の大学や研究機関・企業等が連携し、総合的・体系的な教育研究が行われる環境を構築する必要がある。

については、社会人を含む幅広い人材育成を目指して、教育利用枠の設定や大学間のネットワーク形成等、効果的な教育研究のための各般の支援措置を求める。

5 防災・減災に資する研究をはじめとした「戦略5分野」における研究成果の社会還元を推進

「京」を用いて戦略的・重点的に研究を推進していく戦略5分野（防災・減災やものづくり、医療など5分野）に関し、研究の成果を学術的な利用にとどめず、社会に還元し、有効に活用していく必要がある。

については、「京」による研究成果を、社会や生活に還元させる仕組みの構築を求める。

平成23年11月

京都府知事	山田 啓二
大阪府知事	松井 一郎
兵庫県知事	井戸 敏三
京都市長	門川 大作
大阪市長	平松 邦夫
神戸市長	矢田 立郎
国立大学法人 京都大学総長	松本 紘
国立大学法人 大阪大学総長	平野 俊夫
国立大学法人 神戸大学長	福田 秀樹
国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学長	磯貝 彰
兵庫県立大学長	清原 正義
公益社団法人 関西経済連合会会長	森 詳介
京都商工会議所会頭	立石 義雄
大阪商工会議所会頭	佐藤 茂雄
神戸商工会議所会頭	大橋 忠晴
財団法人 計算科学振興財団理事長	秋山 喜久